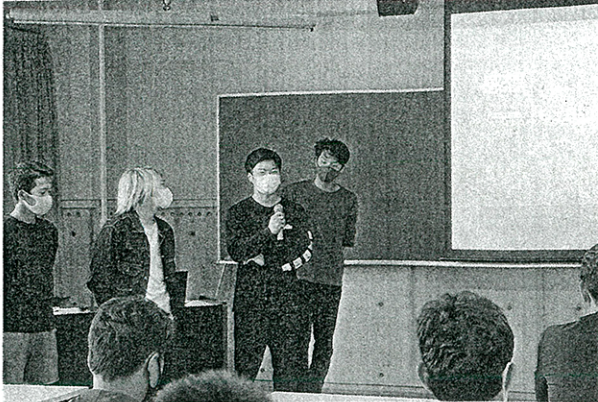


保冷剤を使った新商品のアイデアを発表する学生たち＝四日市市営生町の四日市大で



## 保冷剤の新商品 社長を前に提案

大学生が企業の新商品のアイデアを考える授業が六日、四日市市営生町の四日市大であった。同大の三、四年生の二十七人が五グループに分かれ、保冷剤などを製造する三重化学工業（松阪市）の山川大輔社長を前に発表した。

「ビジネススマネジメント」の岩崎祐子特任教授の一環。授業は四月下旬から計五回あり、各グループに三重化学工業の社員が入り、新商品の開発意図や商品価格、販売方法などを一緒に考えた。

発表では、スマートフォンやランドセル専用、スポーツ時の熱中症対策に特化した保冷剤の提案があった。発表後には学生から「自分たちの使い勝手の良

## 三重化学工業社員と考える 授業で四日市大生

さだけじゃなく、社員の人と話し合って商品化という目線で物事を考えることができた」と声があがった。

山川社長は「各チームともしっかりと授業に取り組んでいた」と講評。「良いアイデアは深い対話から生まれる。これからも多様な人と話し合って、気付きを得ていってほしい」と呼び掛けた。

(神尾大樹)

## 桑名拠点に活動



祭りの雰囲気伝える作品が並ぶ会場＝桑名市桑名の六華苑で

桑名市の桑名石取祭の保存会の伊藤文郎会長ら役員4人が7日、市役所に伊藤徳宇市長を訪ね、祭車の曳き回しの際に講じる新型コロナウイルス感染防止策などを説明した。

曳き回しは新型コロナの影響で2年間休止しており、3年ぶりに実施する。感染防止として、祭りの参加者にワクチン接種か検査による陰性確認を要請し、練りながらの飲酒や飲食は禁止とする対策を決定。見物客らの密集を避けるため、曳き回す経路を短くしたり、8月7日の「渡祭」の際は桑名宗社の楼門前を立ち入り禁止にしたりもする。

伊藤会長は「今年実施しないと、将来的に祭りをもとに戻すのは難しいと